2．キャッシュ・フロー計算書関係

⑴　資金の期末残高の貸借対照表科目別の内訳

現金及び預金	1,663,390千円
（うち定期預金	33,000千円）
資金期末残高	1,630,390千円

⑵　重要な非資金取引

ファイナンス・リースによる資産の取得

工具器具備品	234,517千円

現物寄附の受入による資産の取得

工具器具備品	3,534千円
図書	5,595千円
美術品	750千円
計	9,879千円

3．重要な債務負担行為　（単位：千円）

件名	契約済額	平成25年度支出予定額	平成24年度支出決議済額
総合研究棟（教育系）新営その他設計業務（建築）	34,650	24,255	10,395
総合研究棟（教育系）新営その他設計業務（設備）	10,500	7,350	3,150
障害児教育棟改修工事	36,025	34,082	1,942
外国定期刊行物	9,383	7,262	2,120

4．減損会計関係

⑴　減損を認識した固定資産に関する事項

①　減損を認識した固定資産の用途、種類、場所、帳簿価額等の概要　（単位：千円）

用途	種類	場所	帳簿価額
プール機械室	建物	附属高等学校プール機械室（愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢１）	922
職員住宅	建物	井ヶ谷住宅３号棟（愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢１）	27,411

②　減損の認識に至った経緯

プール機械室は使用の予定がない。

職員住宅は利用率が著しく低下している。

③　減損額のうち損益計算書に計上した金額と計上していない金額の主要な固定資産ごとの内訳　（単位：千円）

場所	種類	減損額	うち損益計算書に計上した金額	うち損益計算書に計上していない金額
附属高等学校プール機械室	建物	922	—	922
井ヶ谷住宅３号棟	建物	16,446	—	16,446

④　回収可能サービス価額

プール機械室は使用の予定がないため、使用価値相当額として備忘価格を用いている。

井ヶ谷住宅３号棟は、使用価値相当額が正味売却価額より高いため、使用価値相当額を採用している。

使用価値相当額については、当該資産の帳簿価額に、当該資産につき使用が想定されていない部分以外の部分の割合を乗じて算出した価額を用いている。

⑵　減損の兆候が認められた固定資産に関する事項

①　減損の兆候が認められた固定資産の用途、種類、場所、帳簿価額等の概要　（単位：千円）

用途	種類	場所	帳簿価額
研修施設	建物 構築物	伊良湖臨海教育実験実習施設（愛知県田原市伊良湖町宮下2914―１）	28,218

②　認められた減損の兆候の概要

施設の利用率が年々低下し、法人化当初の50％を下回った。

③　減損の兆候の有無について、複数の固定資産を一体として判定した理由

施設は、実験実習施設である建物及び屋外電力設備等の構築物からなり、これらは一体となってそのサービスを提供しているため、これらを一体として判定している。

④　減損の認識に至らなかった理由

Ⅰ．施設は授業に使用されており、また学生のクラブ合宿・職員の親睦等宿泊施設としての機能も有しており、海水浴場へ徒歩５分と立地条件もよいため、今後も利用者が途絶えることはないと見込まれる。

Ⅱ．施設は実験実習室・海洋生物観察用の水槽及び教官室兼準備室が設置されている。また宿泊室として和室（８畳４室・６畳２室・20畳１室）があり、宿泊者用に厨房・自炊設備・食堂・食器や寝具も備えられており利用者が快適に使用できる環境が整っている。

⑶　翌事業年度以降の特定の日以後使用しないという決定をした固定資産に関する事項

①　使用しないという決定を行った固定資産の用途、種類、場所、帳簿価額等の概要　（単位：千円）

用途	種類	場所	帳簿価額
職員住宅	建物	井ヶ谷住宅３号棟（愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢１）	10,964

②　使用しなくなる日

平成26年３月（予定）

③　使用しないという決定を行った経緯及び理由

平成24年２月21日より改修工事等は行わず、閉鎖することが決定したため。

④　将来の使用しなくなる日における帳簿価額、回収可能サービス価額及び減損額の見込額　（単位：千円）

場所	種類	帳簿価額	回収可能サービス価額	減損額の見込額
井ヶ谷住宅３号棟	建物	7,979	—	7,979